



こどもの花粉症

千葉県小児科医会 つばき としかず 椿 俊和 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00～翌朝8:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは

☎043 (242) 9939

Q1 何歳から発症？

耳鼻咽喉科医およびその家族を対象とした2019年の全国疫学調査では、年齢別有病率をみると、0～4歳 3.8%、5～9歳 30.1%、10～19歳 49.5%と、若い年齢での発症が増加しています。

Q2 特徴的な症状は？

こどもが的確に症状を訴えることは難しいですが、くしゃみ・鼻水・鼻づまりなどのほかに、鼻を上下にこするしぐさ(アレルギー性鼻炎^{えん}、鼻こすり、目こすり、口呼吸、顔しかめ癖、人中^{じんちゆう}(鼻の下から上唇の間にあるくぼみ)伸びし、などの身体的サインも重要な症状となります。また、鼻水の性質や状態が風邪との区別には重要で、黄緑色の粘性がある鼻汁は細菌感染の可能性が強くなります。

Q3 治療方法は？

局所の処置として、鼻吸引や鼻洗浄を含む鼻処置など血管収縮剤を用いて行うことや、抗アレルギー剤をネブライザーで吸入するエアロゾル吸入療法があります。また、薬物療法として、抗アレルギー剤の内服やステロイド薬(鼻噴霧用ステロイド薬・全身ステロイド薬)、生物学的製剤(オマリズマブ:12歳以上が適応)、点鼻用血管収縮薬(2歳未満の

乳幼児は使えません)、漢方薬、アレルゲン免疫療法(皮下免疫療法・舌下免疫療法※:年齢の制約はありませんが、5歳未満は、アナフィラキシーへの対応に精通した医師によって行われるべきだと思います)、手術などの治療法があります。特にアレルゲン免疫療法は、薬物療法と異なり、現時点では長期にわたり症状が安定した状態を保つ唯一の治療法になります。3～5年の治療を目安とすることが推奨されていますが、治療終了後も数年間にわたって効果が持続することが期待できます。

※ 皮下免疫療法: スギ抗原を含むエキスを皮膚の下に注射する治療

舌下免疫療法: スギ抗原を含むエキスを舌の下に入れてから2分後に飲み込む治療

Q4 完治はするのでしょうか？

花粉症は、完治が難しい疾患です。そのため、小児の花粉症については、患児の睡眠や食事、遊びや勉学・スポーツなどの当たり前の活動が障害されることがないように、必要な治療を的確に行ってあげることが重要です。

